

ケース 10.1 ドイツの「移民第 2 世代」の教育と雇用における成功

ドイツの政治指導者たちが、移民が永続的な現象であることに気が付いたのはようやく 1990 年代の終わり頃になってからであった。移民の「第 2 世代」といわれる、移民の子供たちの経験はゲストワーカー制度の長期的な影響をまともに受けている。もし移民たちが、さまざまな面からみてその多くが定住傾向を強めているにもかかわらず、短期滞在の旅人であるかのように扱われたとしたら、その子供たちの教育や雇用に大きな影響がでるであろう。誤った政策のおかげで、移民の第 2 世代が不利益を被っていることが調査により明らかになりつつある。

1980 年代より、ドイツの学校では、移民の子供たちの教育や雇用機会の向上のためにかなりの努力が払われるようになってきた。しかし、その努力の効果についてはさまざまな評価がある。移民の子供たちは、両親世代に比べて高い学歴を達成して就職しているが、同年齢のドイツ人の子供たちに比べると不利な立場にいるのは明らかである (Meyer, 2002: 76)。

政府の報告書は、外国人の子供たちの小学校入学前の教育への参加率 (後の学校での学業上の成功の重要な前提条件となっている) が低いことを明らかにしている。選別が厳しい中等教育への入学者の割合もドイツ人の子供たちに比べかなり低いこともはっきりしている。1999 年には、ギムナジウム (大学などの高等教育への登竜門となっている高等学校) に通う外国人の子供たちは、全体の 19% にすぎないが、ドイツ国民の子供たちは 40% になっていた。中学にあたるリアルシューレにおいてはその差は縮まっている (外国人の子供たちの進学率は 18%、ドイツ人の子供たちは 22%)。しかし、ハウプトシューレといわれる非熟練技能労働あるいは下層ホワイトカラー労働者向けの職業教育中心の中学や、就学において問題がある子供たちの行く中学校であるゾンダーシューレでは外国人の子供たちの就学率は極端に高い。半数以上の外国人の子供たちは、こうしたレベルの学校に通っている (それに対して、ドイツ国民の子供たちは 21% にすぎない)。こうした結果、1999 年には外国人の子供たちが、大学などの高等教育への進学資格であるアビトゥーアを取得して卒業する割合は 10% 以下にすぎないが、ドイツ人の子供たちは 26% である (BBA, 2002: 199-201)。興味深いことに、同報告書はこうした不利益は階級とエスニシティに関係するとしている。主に労働者階級出身のドイツ国民の子供たちは不利益を被っているが、外国人の子供たちは階級だけでなくエスニシティの点でも不利益を被っていると指摘している (BBA, 2002: 192)。

似たような傾向は、とくにドイツでは重視されている職業教育でもみることができる。ドイツでは、技術職として働くためには、ほとんどの職種で技能資格証を提示することが必要である。15 歳から 16 歳で学校をやめて、仕事に就こうとする子供たちは、現場で実地教育を受けると同時に、職業学校で理論的な勉強をする課程で学ぶ徒弟

(Berufsausbildung)として登録することが望まれている。ドイツ人のこの年齢の子供たちの68%は徒弟となり、普通課程の学校には通っていないが、外国人の子供たちの場合は39%が登録しているにすぎない(BBA, 2002: 419)。さらに徒弟となっている外国人の子供たちの多くは、昇進の機会が少ない低技能労働資格の職業、例えば、小売店従業員、美容師、自動車組立工、ペンキ職人、電気工、配管工などになるための訓練課程に登録していることが普通である(BBA, 2002: 422)。それゆえに、第2世代の移民たちの多くは両親世代より高い学歴や職業資格を得てはいるが、同年齢のドイツ人の子供たちより、教育・就職の面で不利益を被ったままだといってよい。フォーマル・セクターでの低技能労働が減少しつつある今日、技能資格の低い外国人の若い世代の職業機会は限られており、多くは失業と交互に臨時的な職業に就くしかなくなるだろう。

【参考文献】

BBA (2002) *Bericht über die Lage der Ausländer in der Bundesrepublik Deutschland* (Berlin and Bonn: Beauftragte der Bundesregierung für Ausländerfragen).

Meyer, T. (2002) 'Sozialstruktur und Migranten: die soziale Lage der Arbeitsmigranten in Deutschland' in Treichler, A. (ed.) *Wohlfahrtsstaat, Einwanderung und ethnische Minderheiten*, (Wiesbaden: Westdeutscher Verlag).